

無戸籍者に教育支援開始

明石市 40代男性「自分に自信」

明石市は8日、戸籍がないため義務教育を受けられないまま成人した人への教育支援を始めた。同市は今月から無戸籍者のための相談窓口を開設。戸籍がない人が進学や就職で不利益を被っている実態を踏まえ、対応していく。

この日、同市役所内で初めての学習支援が行われ、兵庫県内在住で同市で働く40代のアルバイト男性が参加。元市立小学校教諭の大江平治さん(65)が約2時間、簡単な計算や電卓の使い方などを丁寧に指導した。

男性が新聞で同市の取り組みを知り、連絡したことがきっかけで実現した。

男性は終了後、「初めて3桁の計算ができるようになり、自分に自信がついた。今後は理科など、教わったこ



算数を教わる無戸籍の男性(手前)
＝明石市役所 (撮影・井原尚基)

とのない勉強に取り組みたい」と話した。学習支援は本年度内に5回程度、予定されている。大江さんは「ものす

ごく意欲的で、もっと早くから学習の機会があればと感じた。少しでも、新しい道を歩む力になれたら」と話した。(新聞真理)